第9回 サステナブル住宅賞

主催：一般財団法人建築環境・省エネルギー機構

一般財団法人 ベターリビング理事長賞　ライオンズ芦屋グランフォート

ー持続可能な社会に向けた未来のスタンダードを目指した住宅ー

世界的な地球温暖化が問題視されている中、住宅分野は大幅なCO2排出量削減が求められており、東日本大震災以降、災害への対応も住宅に求められる重要なテーマとなっている。こうした社会課題に対する有効な対応策としてZEHやLCP住宅が挙げられるが、5年前の計画当初、集合住宅においては明確な指針や基準さえなく、対応が大幅に遅れているという現状があった。「未来の集合住宅のあるべき姿」を考えた時、省エネや災害への対応はもちろんの事、安心・快適・健康・経済性・コミュニティなどの「新たなユーザーベネフィットの創出」や「地域・自然との共生」を高次元に融合させる事が「真のサステナブルな住まい」に繋がり、ひいてはそれが地域にとっても存在する価値のある住宅になる。実現へのハードルは高いものの、この取組みが集合住宅における未来のスタンダードとなる事を目指した。

1. エネルギーの自立循環　｜　2. 新たなベネフィットの創出　｜　3. 地域・自然との共生

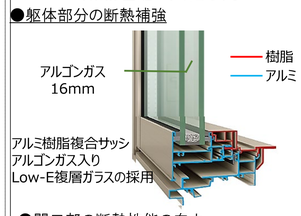
1. エネルギーの自立循環

①エネルギー消費量を減らし、創る住宅

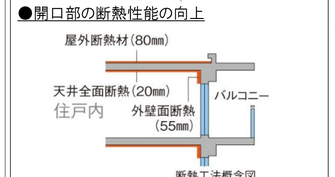
中層住宅（5階建）において日本初のNearly ZEH-Mを実現。
省エネ・創エネにより79%の一次エネルギー消費量を削減。

断熱性能の大幅な向上

●躯体部分の断熱補強



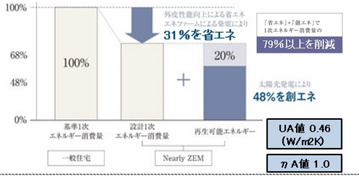
●開口部の断熱性能の向上



1次エネルギー消費量79%削減

●高効率燃料電池「エネファームtypeS」全住戸採用

●再生可能エネルギー（太陽光発電）の採用



②災害時に自宅で生活できる、自立する住宅

災害時、「電気」「水」「ガス」全てのインフラが止まっても7日間以上生活を持続可能とし、平常時は維持管理費を削減。

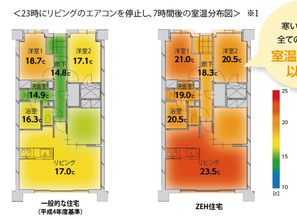
《専有部》

《共用部》

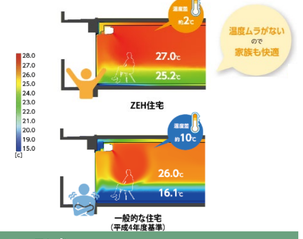
2. 新たなベネフィットの創出

高断熱により、1年中快適で健康的な住まいを実現

家中どこでも、室温18℃以上を保つ



部屋の隅々まで均一に暖かく保つ



環境教育プログラム等、緑を通じ持続的なコミュニティ形成

環境教育プログラム

令和元年								令和2年											
5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
●植樹祭（開催済）																			
					●みどりエコアップ作業									●みどりエコアップ作業		●ウォークスルー			
												●グリーンカーテンセミナー							
		●みどりと生きもの観察（初夏）				●みどりと生きもの観察（晩秋）											●みどりと生きもの観察（秋）		
						△リースづくり													

●植樹祭

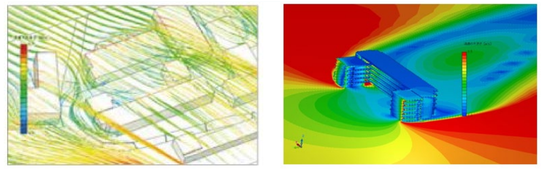
●グリーンカーテンセミナー

●ウォークスルー

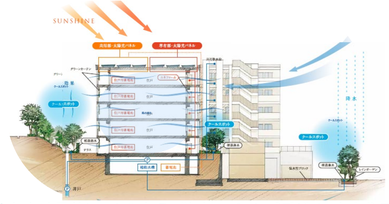
●グリーンモニタリング

六甲の風を効果的に室内に取り込み「ライオンズパッシブデザイン」で暑い夏を涼しく

①風環境シミュレーションにより周辺の風の流れを工学的に検証



②計画的な緑地配置により植物の蒸散効果で風の流れを生む



②風の流れを効果的に取り入れる、独自のパッシブデザインを全住戸に採用

3. 地域・自然との共生

六甲の自然に調和し、生物多様性の保全にも配慮した緑地配置

計画前に生物多様性ポテンシャル評価を行い、敷地内緑化率は20%以上を確保し、「グリーン緩衝帯」や「階層的な緑地構造」などを実施。その他、生物の生息域に配慮した「エコスタック」、物質循環に配慮し「再生材を使用した瓦チップの歩道」、薄い循環に配慮した「レインガーデン」、舗装は「孫アスファルト仕様の保水性インターロッキング舗装」とするなど、生態系を保全し自然の力を活かす取り組みを実施。

周囲に幅1.5mの歩道を整備

生物多様性評価シート

グリーンコリドー

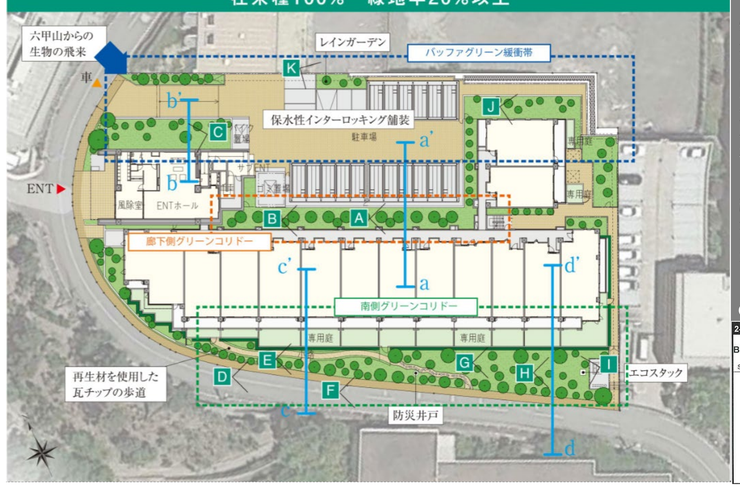
階層的な緑地構造

バードバス

再生材を使用した瓦チップの歩道

レインガーデン

在来種100%　緑地率20%以上



物件名	：ライオンズ芦屋グランフォート
建築主	：株式会社大京
設計・監理	：浅井謙建築研究所株式会社
施工者	：佐藤工業株式会社　大阪支店
所在地	：兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町8番18
構造・規模	：鉄筋コンクリート造、地上5階地下1階建て、陸屋根、共同住宅
総戸数	：79戸
建築延面積	：8,079.85㎡
竣工年月	：平成31年2月15日

●CASBEE評価結果シート